

平成26年度事業報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

特定非営利活動法人 飯綱高原よっこらしょ

平成26年度は、前年度に引き続き(1)飯綱高原地域内にある遊休農地の再生・活用事業(2)地産地消・食育推進事業 (3)自治組織や企業などとの連携による飯綱山麓の地域振興事業(4)地域福祉の推進に係る高齢者等いきがい生活支援事業 (5)飯綱高原ビジターセンター運営事業を実施した。

特に遊休農地再生活用事業では、「飯綱山麓・山羊とこどもたちがリーダーの遊休農地ストップ事業」(以下、「ヤギプロジェクト」)を新規に展開し、今まで関心の薄かった層にも支援者を広げた。28年に全国植樹祭が長野県で開催されることに伴い、県民参加の機運を高めるための活動に取り組んだ。

(1) 遊休農地再生・活用事業

① 遊休農地での農作物の栽培

遊休農地解消を目的に、よっこらしょ農場等において、飯綱高原にふさわしい景観の形成するためのソバなど景観作物の栽培や、イベントなどに用いる夏野菜(ジャガイモ、トマトなど)、冬野菜(大根、野沢菜など)の栽培、付加価値の高い「千捻花豆」の栽培に取り組んだ。

② 食農体験イベントーいづな農楽舎の開催

農業体験希望者を地域内外から募集し、日頃は経験できない農作業体験を提供し「食べ物」をつくる楽しみ、喜びを共有してもらうため、年4回のイベントを実施した。イベントを通じて人々の交流・ふれあいの場を提供できた。また、他団体との協働により、「ジビエ」を使ったバーベキューといった独自性の高いプログラムを提供した。体験メニューの研究、実践の結果、参加者のイベントに対する満足度を高かめることができ、リピーターの確保につながった

平成26年5月11日(日)

ジャガイモ・花豆の植え付けと山菜ランチ 49人

平成26年7月27日(日)

ソバの種まき・ジャガイモの収穫と農場バーベキュー 56人

平成26年11月9日(日)

大根の収穫とそば打ち講座 65人

平成26年11月30日(日)

野沢菜の収穫と花豆煮講座 24人

③ 飯綱山麓・山羊とこどもたちがリーダーの遊休農地ストップ事業

(県地域発 元気づくり支援金事業)

荒廃農地の拡大に歯止めをかけるとともに、観光地として魅力を向上させるため、山羊を飼育し、農地の除草事業に取り組んだ。また、一般の方とのふれあい体験や山羊乳の活用ワークショップ等を開催した。これにより、山羊を通じて、今まで遊休農地の問題に関わりの薄かった層への寄付・ボランティア活動の拡大が図られた。

- ・ ヤギ小屋のセルフビルド

地域の間伐材を利用して、こどもを含むボランティアで小屋を自力で建設した。また、放牧用の柵を設置した。

- ・ ヤギによる農場内の除草デモンストレーション
よっこらしょ農場や芋井地区の遊休農地で繫留により、ヤギによる除草を行い、その効果を実証した。27年度以降の本格的なレンタル事業に備えてデータを記録し、行政機関や農家などへの広報資料を作成した。長野市長が視察に来るなど関心が高く、27年度は長野市のモデル事業に採択された。
- ・ ふれあい体験の実施
農場内や飯綱高原マラソンにおいて、ヤギとのふれあい体験を行い、遊休農地問題への啓発と寄付・ボランティア活動の拡大を図った。なお、長野市街地では規制があり、ふれあい事業の実施について課題を残した。
- ・ 山羊乳の活用ワークショップ開催
一般、スタッフのワークショップを行い、乳の活用などヤギの付加価値を高める活動を検討した。チーズ製造に向けて、今後研究することになった。

ボランティア・寄付者数 約8000人（延べ）

うち クリック募金者数 7300人

(2) 地産地消システム構築・食育推進事業

① 「ながのいのち」ブランド推進協議会への参画

協議会構成員として、市農業公社が主宰する「ながのいのち」ブランドの推進のための活動に取り組んだ。長野市中央通り商店街の催しにあわせて、焼きとうろしの販売を行った。

平成26年8月12日 お花市（歩行者天国）

② 食育プログラムの開発と実施

女性中心のサークルとして、「五感を使って旬をいただき、安心な食を大切にする心を育てる」をコンセプトとする効果的な食育プログラム（「大豆」をテーマにしたプログラム）を実践した。自分の手で調理・加工体験をしていただくことで、地産地消の考え方の普及や大人を含む食育の推進を図った。

- ・ 大豆栽培：アオダイズ 約10a
- ・ 味噌づくり講座の実施：家庭でも実践できる味噌づくりの講座を開催し、普及に努めた
- ・ メンバー数 15名

③ 芋井地区農家民泊の農業体験メニューへの協力

芋井地区で実施している民泊事業の一環として、修学旅行生に対する農業体験の指導等を行う。（2校 約40名）

(3) 地域振興事業

① テレビ信州「伝えよう！里山ものがたり」の協働運営

賛助団体会員のテレビ信州が取り組んでいる「伝えよう！里山ものがたり」キャンペーンの一環として、一般視聴者参加の米作り、地元芋井小学校全児童とふるさとの森づくりを行い、一般の方々の目を通した「里山」「田んぼ・畑」の姿を視聴者に伝え、「里山再生」のプロジェクトを多様な主体の参加によって推進した。

ア 親子米づくり大作戦

- ・ 年間9回 10家族：田植え、草取り、稲刈り、脱穀、飯ごうすいさん、里山あそび、餅つき、しめ縄づくりなど
- ・ 芋井広瀬地区 水田（10a）及び笹峯山（6ha）
- ・ 一般の方へのPRとして、「TSB秋の大収穫祭」（11月、南長野運動公園）に参加した。

イ 芋井小学校との里山プログラム

「緑の募金公募事業」を活用して芋井小学校全校児童に対する森林環境教育を行い、児童の描く「ゆめのもり」に沿って新しい価値を持つ森づくりを進めた。さらに他地域への波及効果を狙って、壁新聞など作成し、市内小学校に配布した。

- ・ 年間5回の授業及び学校行事の中で、「観る・遊ぶ」、「学ぶ・育てる」、「創る・食す」をテーマとする森林内での活動を行った。
- ・ 児童が描く「ふるさと・ゆめのもり」の未来の姿や取り組みの状況、児童が感じたことなどをまとめた壁新聞などを作成し、長野市内小学校、地域などに配布した。他地域への波及効果を狙って、テレビ番組を通じて広く一般の方に活動を知ってもらった。

② 飯綱高原のブランド・観光PR

飯綱高原の観光交流イベント等に焼きとうもろこしのブースを設け、イベントの盛り上げ、飯綱高原ブランドの宣伝に協力した。

平成26年 8月30日、31日 TSB24時間テレビ37
平成26年10月 5日 飯綱高原健康マラソン

③ 飯綱高原の自然資源を活かしたイベントの開催

飯綱高原の自然を満喫できるイベントを開催することにより、訪問者相互の交流と地域資源を活かした飯綱高原ブランドづくりと発信を図った。

平成27年2月22日 スノーシューイベント
冬だからこそそとごはん〜リッチにスノーシュー 39人
(場所：長野カントリーゴルフコース)

④ 全国植樹祭活動事業

第67回全国植樹祭の開催機運を高め、県全域をステージとした県民主体・県民参加による広域開催の実現を目指すため、長野市芋井地区の森林整備活動及びその木材を利用したクラフト体験を一般県民が多く集まるイベントや場所で行い、植樹祭のPR活動を効果的に実施した。

- ・ 指導員の指導のもと、NPO法人のスタッフ、ボランティアが、スギや雑木の間伐作業を行い、間伐した木材の端材を利用して、「苗木のホームステイ」用のプランターキットを作成した。枝などはクラフト体験用の材料に加工した。

指導者・ボランティア 延べ86名

- ・ 森林に親しむ入り口として、クラフト体験をイベントやスキー場にきた多くの家族・こどもたちに体験してもらい、来年度以降の植樹祭活動への参加を促した。

平成26年11月23、24日 食の合戦 in ながの 2014 約800人

平成27年2月11日 飯綱高原スキー場 約400人

- ・ 芋井小学校の児童とともに、苗木のスクールステイに備えて、プランターの組み立てを行った。また、提供されたどんぐりを苗木ポットに植えつけた。活動状況を伝えるパネルを作成して、展示することにより、「苗木のスクールステイ」

募集を進めた。

平成27年2月2日 芋井小学校クラブ活動

30人

⑤ 移住・交流事業の検討

芋井地区を対象エリアとして、都会の企業と協定を結び、社員福利厚生事業としての農業体験の提供、社会貢献事業としての共同作業への参加、企業の本業と連携する事業に展開をする都市農村交流事業の研究を行った。また、移住者が多い飯綱高原地区の特徴を生かして、移住希望者へのセミナー・相談事業の立ち上げも検討した。来年度以降は芋井・飯綱高原地区の配置予定の地域おこし協力隊や行政等の他団体と密に連携し、具体的事業の検討を進めていく。

(4) 高齢者生きがい生活支援事業

よっころしよ農場併設のカフェ&サロン「よのや」を拠点に、地域の高齢者を対象にした「いきがづくり」、「居場所・つながりづくり」、「多世代交流」を行った。

- ・ 生きがづくり活動としての各種講座の運営
「みんなが先生、みんなが生徒」をモットーに、高齢者がお互いの知識やスキルを生かした趣味や学習の講座、飯綱高原の地域資源を生かした講座を企画・実施した。(そば打ち講座、ハーブ講座、オカリナサークル(月1回)など)
- ・ 社会貢献活動を兼ねた地域農場の運営
地域の高齢者等とともに「遊休農地再生活用事業」「ヤギプロジェクト」などの社会貢献を実施した。
- ・ 常設型のふれあいいきいきサロン
高齢者等が地域内において気軽につどい交流できる場として、常設型のふれあいいきいきサロンを行った。また地域の民生委員が主催する飯綱高原の「高齢者サロン」の実施に協力した。

(5) 飯綱高原ビジターセンター運営事業

ビジターセンター「オトナリハウス」を飯綱高原観光協会とともに運営、維持管理し、訪問者に対して飯綱高原の魅力を発信した。

飯綱高原観光協会との共同による維持管理
(固定資産税等の固定費負担)

(6) ボランティア等の受入

ボランティアへの理解促進を目的に行われているサマーチャレンジボランティア、県職員のNPOとの協働に関する研修として、農場での農作業やイベント運営のボランティアの受け入れを積極的に行った。

- ・ サマーチャレンジボランティア(長野市ボランティアセンター)
7月～8月 16人(延べ48人)
- ・ 県民協働研修(長野県自治研修所) 8月～11月 4人(延べ12人)

(7) 新規会員の確保、既存会員とのコミュニケーション、寄付の拡大

イベントの継続的参加者、ボランティア等から法人活動全体の支援者へのステップアップを図り、継続会員へのマメな情報提供や成果報告などを通じて、共感をいただく中で会員の継続を図っていくよう務めた。

引き続き、理事を中心として、多くの関係者に対して会員募集や寄付の働きかけに力を入れていくこととなった。